

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 家庭教育支援活動の取組事例

「家庭教育支援総合推進事業の成果と課題」(岩手県紫波町)

取組の概要や経緯

- 子どもたちの「**家庭学習の充実**」「**読書活動の推進**」についての課題**解決**につなげるため、地域の人々との交流の中で子ども達の学ぶ意欲の醸成、読書に親しむ態度や読書習慣の育成を図る。
- 町内各地区の子育て世代の学習、親同士の交流機会の促進を図り、**家庭教育力の向上**を目指す。



内容

- 家庭教育・家庭学習の定着、子育て理解促進のための講座・事業または、読書活動の推進を図るため、読み聞かせや交流会を通して子どもが本に興味をもつことを目的とした講座・事業を12月末の時点で町内7地区で9回実施。(内2地区は合同で実施。)
- 赤石地区では子育てに関する教育講演を保護者向けに行った。また、彦部地区では郷土芸能「田植え踊り」を郷土芸能保存会の指導を受け、小学校の運動会で披露し、地域の人々との交流を図るなど、**実施地区ごとに、さまざまな事業を展開**した。



ポイント

- 主に各地区に設置された教育振興実践協議会が主体となり事業を実施。
- これまでの地域活動のノウハウが生かされ、**地域・学校・家庭・行政が、より円滑に連携**。



成果

- 地域人材を講師として招き、地区に伝わる郷土芸能の伝承活動など、**地区の特色を活かした事業を実施**することができた。
- すべての事業の参加者は児童・保護者・地域住民など幅広く、参加人数は12月末の時点で840名。

今後の方向性

- より参加者のニーズに合致し、充実した活動内容とするため、参加者全員にとってわかりやすい評価基準を設け、事業内容の見直しを行っていきたい。